

農林水産省に木造による 「保育所」が開設されました



建築概要

・延床面積	約 250m ²
・木材使用量	約 66m ³
うち、スギ	約 24m ³
ヒノキ	約 2m ³
カラマツ	約 16m ³

霞

ヶ関の一角、農林水産省の建物の敷地内に、木造による保育所が開設されました。

構造は木造平屋建てで、内外装に木材をふんだんに使っています。特に、子どもたちが常に触れる保育室の床には、厚さ30mmの無垢のスギ板を使っています。厚いスギ板は、断熱性や衝撃吸収性に優れ触り心地もよいことや、木の香りにはリラクゼーション効果があることから、子どもたちの動きが活発になる、泣きにくくなる、笑顔が増えるといった効果が期待されます。保育士さんのお話でも、木の床は温かみがあり、子どもたちの情緒は安定しているように感じるとのことでした。

園庭との仕切りは木製サッシにしています。木製サッシは断熱性が高く結露しにくいので、快適な室内環境や省エネに貢献します。ヨーロッパ等では木製サッシの普及率が高く、日本でもこれから、省エネで健康な住まいや空間をつくるという観点で、普及していくことが期待されています。

この保育所の計画に当たっては、都市の中心、防火地域という最も耐火規制の厳しい地区のため、耐火建築物にする必要があります。木造では難しいのではと思われるかもしれませんが、現在の技術では十分に可能です。今回は、壁や天井などを石膏ボードで覆うという現在最もポピュラーな技術を採用し、構造部材に国産のスギやカラマツの集成材、耐力壁にCLT※を使っています。

この保育所は、都市での木材利用のモデルとなるよう整備されました。都市の暮らしに木のぬくもりが広がるよう、皆さんの職場や生活の場でも建物の木造化や内外装の木質化をぜひご検討ください！

※CLT… Cross Laminated Timber (直交集成板) の略。ひき板を繊維方向が直交するように積層接着したパネル。